

# Tricolor

## 小学生の夏期平日練習について

小学3～6年生の夏休み期間中の平日練習は、今年もしんよこフットボールパークにて行います。

人工芝のグラウンドのため、原則雨天でも活動できますし、暑い日中の炎天下ではなく、朝の比較的涼しい時間帯に活動することができます。また、夏休みに入ってから朝の時間帯に活動することにより、夜更かしや朝寝坊による生活リズムの乱れを防ぎ、合宿前に連続して活動しそのまま合宿に繋げられることにより、合宿での効果をより大きなものにするというねらいもあります。

申込方法詳細につきましては、各学年のメーリングリストの案内をご確認いただき、ご不明な点がございましたらお問合せください。

### 【小学生夏期平日練習概要】

■対象 小学3年生～6年生

### ■日程

前期：7/22(月)～25(木) 4日間

後期：8/19(月)～23(金) 5日間

※全9回

■時間 8:00～10:00

■会場 しんよこフットボールパーク

### ■集合

・3年生、4年生：7:00 港北小学校

・5年生、6年生：7:45 現地

### ■引率

・3年生、4年生：港北小からコーチが引率

・5年生、6年生：現地集合・解散

■申込期間 7/6(土)～7/20(金)

## 大会・公式戦結果

### 小6

#### 【JFA リーグ】

vs 太尾 FC 0-1●

vs 横浜 FC つばさ 0-5●

## JUNIOR YOUTH

### 【県 U-13 リーグ】

vs SFAT 伊勢原 2-3●

## YOUTH

### 【県 U-18 リーグ】

vs 綾瀬高校 1-4●

vs 山北高校 1-5●

vs 西湘高校 3-3△

## TOP

### 【県社会人サッカーリーグ1部】

vs 海自厚木マーカス 0-3●

vs イトゥアーノ横浜 0-0△

### 【市リーグ】

vs FC フェルメンターレ 0-1●

vs 蹴る蹴るケルメ 1-1△

## PAPAS

### ☆OVER50

### 【市シニアマスターズ】

vs AS 本牧 4-0○

### ☆OVER40

### 【市シニアマスターズ】

vs 三春台シニア 1-1△

## 今、グラウンドでは・・・

## TOP

### 【県リーグ前半戦終了】

6月9日(日)に海自厚木マーカスと戦い0-3で敗戦、6月23日(日)にイトゥアーノFC横浜と戦い0-0で引き分けました。

これで県リーグ全18試合中9試合が終了し、2勝5敗2分け勝ち点8で10チーム中8位の成績となっています。

前半戦を振り返ると、開幕戦で逆転勝利を収めたものの、その後のリーグ戦での勝利は1試

合だけ、勝ち点を思うように伸ばせませんでした。得点は10点1試合平均1得点では、なかなか勝ちに結び付きません。失点は14と上位チーム相手にも何とか大量失点せずに我慢強く戦って、得失点差で8位にいる状態です。

現状1部リーグは10チーム中上位4チームが勝ち点を伸ばしており、下位6チームが僅差で争っている状態です。後半戦の戦いとしては、下位チームとの戦いでいかに勝利をしていくかが、1部残留のカギを握ると思います。

7月には上位4チームとの4連戦が控えています。苦戦が予想されますが、持ち前の守備力で勝ち点を拾っていくことがリーグ戦終盤につながると思います。今後とも、TOP チームの応援よろしく願っています。

#### 【県リーグ試合予定】

##### ■第11節

7月14日(日) 10:05Kickoff

新横浜公園 球技場

vs 品川 CC 横浜

##### ■第12節

7月21日(日) 19:05Kickoff

しんよこフットボールパーク

vs YOKOHAMA FIFTY CLUB

##### ■第13節

7月28日(日) 10:05Kickoff

しんよこフットボールパーク

vs 海自厚木マーカス

#### 【オフィシャルサイト TOP チームページ】

<http://www.kanagawaclub.com/topteam.html>

(中本 洋一)

## YOUTH

6月から「高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ」がスタートしました。黒星が先行する厳しいスタートとなってしまいました。主力であり中心となってチームを引っ張ってってもらいたいと考えていた3年生の多くが大学受験にシフトチェンジしてしまい、サッカーの優先度が下がって

しまってきているのが非常に残念です。しかしながら、試合を重ねる毎に1、2年生や中3生の成長がみられ、新しい布陣での戦い方も徐々に形になりつつあり、チームの状態としては上向きになってきています。年度当初に想定していたチーム作りのプランからは、大きな変更が必要な厳しい状況ではありますが、1、2年生や新メンバーの更なる成長に期待しつつ、新しいチーム作りを進めていきたいと考えています。

今月からはJユースカップ関東予選もスタートします。県内および関東近県の戦力的には格上のクラブチームとの試合が続き、苦戦が予想されます。もちろん決勝トーナメント進出を目標に掲げ、結果にも拘り戦っていきますが、結果だけではなく1戦1戦大切に試合をしながら、個人としてもチームとしても成長していけるよう引き続き取り組んでいきたいと考えております。

(豊田 泰弘)

## JUNIOR YOUTH

6月は中学校の定期テストがあり、テスト期間前から「お休み」に入る選手が多数いる状況です。毎日練習をしている中学校の部活動とは違い、当クラブは平日2日間しか練習をしていないのにも関わらずお休みをしまいます。中にはお休みせずにテスト期間ギリギリまで当クラブの活動に参加してテスト期間のみお休みする選手はいます。今回1年生のなかにはテスト期間中でも練習に参加した選手もいました。「練習に来る前に勉強してきたから十分」とのこと。十分かどうかはなんともわかりませんが、平日頃からの取り組み方や工夫でお休みしなくても通常通りボール蹴れるはずなんです。このことに関しては、当クラブとしても変化を求めていると考えております。

さて、6月からはU13リーグがスタートいたしました。中学1年生中心の公式戦です。新ユニフォームを身にまとい初戦を戦ってくれました。

2-3と惜しくも負けてしまいましたが、一人ひとりが戦う姿勢をみせて、躍動感あるプレーをみせてくれました。とは言えまだまだ足りてない部分だけですね。

勝利を目指してもっと戦いもっと動き回りもっと走らないと。守備面に関して言えばボール奪取を必死にやり続けなければなりません。もっと・・・もっと・・・だらけですが、伸びしろだらけの15名です。次戦に期待していますし、その前の平日頃にどれだけの準備ができるかです。「チャレンジすること」を忘れずに、継続して活動を進めていきたいと思っています。

引き続きよろしく願っています。

(新田 友和)

6月はU-13として初めての公式戦であるU-13リーグが始まりました。結果は2-3と負けてしまいましたが、選手たちは程よい緊張感と集中力もあり、チームとして良い雰囲気での試合に臨んだと思います。ポジションサッカーを目標としていたのですが、相手にボールを保持される時間多く、試合終盤では、疲れている選手が多く見られました。技術面では、丁寧にパスをつなぐ、動きながらオフザボールの時もポジションを常に変えつつ、止まっている時間を少なくし、体面でも練習から意識させて取り組んでいきたいと思っています。

そして6月の後半には、厳しく指導したこともあり、練習中に関係ない話をしている人に対して、注意できる人が増えてきました。7月までに全員がオンザピッチ、オフザピッチでのメリハリをつけられるように指導していきたいと思っています。

(今川 輝一郎)

## 小6

いよいよ7月後半から小学生最後の夏休みがスタートしますね。かながわクラブでも夏休み入ってすぐのしんよこフットボールパークでの朝

練習から始まり、連続して合宿と本格的な夏のプログラムが始まります。

人工芝での朝練から天然芝での合宿と、普段の土のグラウンドではできないようなメニューや、もう一步踏み込んだ判断等を要求する練習に取り組んでいきたいと考えております。また約1週間にわたり連続してトレーニングできるといことで、これまではどうしてもぶつ切りになってしまいがちで、なかなか到達できていないもう一步進んだレベルまで要求していけるようなトレーニングを行っていききたいと、今から楽しみに準備を進めています。夏の最初の1週間を利用して、今後の飛躍的な成長のための土台作りを行っていききたいと考えております。ぜひ可能な限りご参加ください。

また、7月後半以降のジュニアユース(中学生年代)の活動の一部に、小6も参加してもらいたいと計画しております。詳細は別途改めてご案内いたしますが、ジュニアユースのあるクラブチームに所属している大きなメリットになりますので、都合のつく限りぜひ積極的に参加してみてください。ジュニアユース年代のサッカーを先取りで体感することにより、技術・体力・スピード等のプレー面での向上、サッカーに対する取り組み姿勢の飛躍的な向上をねらいとします。状況によってはジュニアユースのTRMや公式戦への出場の可能性もありますので、現時点での技術力・体の大きさ等に関わらず、まずはぜひ積極的に参加してアピールしてみてください。

体調管理には十分気を付けて元気にクラブの活動に参加してください。

(豊田 泰弘)

## 小5

6月に行われたNHK杯は、残念ながら予選2位となり本戦に行くことはできませんでした。

ある程度の相手に対しては、勝てるようになってきていると感じます。しっかりとボールを繋

ぎ点を決める、周りの状況を確認して的確なプレーができるようになってきていると思います。

しかし、当然ながら自分達よりレベルの高いチームと戦うこともあります。むしろまだまだ周りにはレベルの高いチームばかりだと思います。その時に、本当の今の自分達の力が試されると子ども達に思っています。ただ強い相手と戦って結果的に負けた、悔しい、相手が強かった、で終わってしまっただけでは全く意味がありません。

先日のNHK杯の予選最終戦は、勝った方が1位通過となり、本戦出場を決める大事な一戦でした。子ども達も緊張している姿がみられました。今まで4年の春、秋の大会でもあと一歩のところまで負けていたので、ここは何としても勝って自信をつけたいところでしたが、相手の早いプレッシャーや個人技の上手さの前に負けてしまいました。試合終了後、子ども達一人一人に感想と、今後どうしたらいいかミーティングをしたところ、子ども達自身も、敗戦の理由や今後の課題が見えたと思います。半数の選手達が感じた相手の早いプレッシャーに対して焦って何もできなかったことから、次の練習のゲームから、みんなでプレッシャーを早くかけるようにして慣れようと口にしていました。しかし、いざ次の練習のゲームになると、中には意識的にプレッシャーをかけている子もいましたが、まだまだ足りないと感じました。本当にそれで勝てるようになるのか。もちろんそれを指導するのがコーチである私の役目ではありません。しかし実際にプレーをするのは子ども達自身です。何かを意識して練習に臨むか臨まないかでは、明らかに差が生まれます。

試合中、他のチームの監督やコーチを見ると、大声で選手に指示を出したり、怒鳴り声のような喝が飛び交っているチームもあります。私の考えでは、コーチがベンチから選手達に対して一個一個指示をだして、まるで子ども達に

『やらせている』ようなプレーはさせたくありません。むしろ、ピッチに立っている選手がその時の判断でプレーして欲しいと思っています。もちろん、試合中のアドバイスや良いプレーに対しての声はかけます。

試合中はミスも必ずあります。しかしミスをして怒ったことは一度もありません。大事なことは、ミスをした後、全力で取り返しに行けるかどうか、ミスから次のプレーをどうするか、同じミスをしないようにするにはどうしたらいいかを考えることだと思います。

日頃から、トライ&エラーを意識して行えるようになれば、試合中自分でプレーを改善し好転させることができると思います。

長くなってしまい、文章が分かりづらくなってしまいましたが、子ども達には練習の時、試合の時は何か目標を持って意識的にプレーしてもらいたいです。今回NHK杯に選ばれた選手、選ばなかった選手関係なく全員に伝えたいことです。

また、これからは選抜メンバーで臨む試合が増えていくことは確実です。その際、メンバーを固定するつもりはありませんし、入れ替えもあります。頑張っている人は必ず見えています。誰かが見てくれていると思って、1回の練習、1つのプレーを大事にして下さい。僕なんてなど思わず、自信を持ってプレーをしましょう！

最後に、7月に入り気温も上がり蒸し暑い日が続いています。特に水分補給に関しては練習中もこまめに取るよう心がけますが、給水以外でも喉が渴いたら自分で水分補給するように声をかけますので、持参する飲み物も多めに用意いただけたらと思います。また、これからどんどん気温が上がると、子ども達にとってあまりにも厳しい暑さのようであれば、練習を中止させていただく場合もございますのでご了承下さい。

5年生になり、対外試合の際は子ども達だけ

の移動になっています。もう何度か行っていましたが、公共交通機関を利用する際は、必ずマナーを守って利用して下さい。(電車やバスの優先席や、乗車中の声のボリュームなど)

(菊地 健志郎)

## 小4

### 【注目すべき18歳!!】

今回の南米選手権において、注目すべきは、かつてバルセロナの下部組織に所属し、この度レアル・マドリードへの移籍が決まった久保建英選手のプレーだったと思われます。海外組が招集できないこの大会では、東京オリンピック世代の台頭が期待されました。なかでも、三好選手や久保選手に関しては、まずまずの輝きを見せた大会という印象です。世界各国のリーグを見渡しても、やはり10代で活躍する選手が増えてきていますし、一流選手と言われる人たちは、概ね10代で既に輝きを放っているものです。技術的に優れているのは言うまでもありませんが、久保選手のインタビューにおけるスペイン語での受け答えそのものやその発言内容についても、一人前の社会人としての雰囲気や十二分に醸し出すものと感じられました。

同時期に行われたU-20のワールドカップにおいても、日本が決勝トーナメント1回戦で惜敗した韓国が決勝戦までコマを進めました。残念ながら優勝はウクライナでしたが…。また、U-22で臨んだトゥロン国際大会では、決勝戦でサッカー王国ブラジルに1-1のスコアのまま惜しくもPK戦で敗れ準優勝という結果でした。このように若い世代が世界の舞台上で活躍しなければ日本代表も強くなれません。下からの突き上げにより、トップチームの底上げが期待できるのですから。こうした若い世代が活躍することが日本のサッカー界の未来を明るくしていくのは間違いありません。

### 【注目すべき18歳??】

そんな若い世代の活躍がサッカー界の未来の光明とすれば、サッカー界の闇を思わせる出来事がありました。大阪のとある駐車場の非常口の案内表示や駐車場の案内看板に蹴ったボールを当てて破壊している映像がネット上に投稿されました。映っていたのは高校生と思しき若者で、ある程度のサッカー経験者であることが映像からは見てとれます。撮影している別の若者の存在も明らかです。こうした行為が器物損壊や私有地への不法侵入ということは明白で、本人たちも多少の後ろめたさがあるのか、人気のない時間帯を狙ってこうした愚行に及んでいます。

サッカーの上手さを認めてもらいたいのであれば、こんな犯罪行為ではなく、もっと別の方法があるはずで、自らの犯罪行為を公に晒すことが、一体「何のためなのか…」と全く意図が理解できません。サッカーに携わるものとしては、サッカーの技術習得のために練習に励んで、試合でその成果を試すという本来の目的からは乖離したこうした行為をとても悲しく思います。そんなことのためにサッカーを利用してほしくはなかった…と。

### 【彼らはサッカーから何を学んだのか?】

少なくともサッカーを経験した人なら、サッカーを通じて「自ら考え、自ら決断をし、自ら行動に移す」ことを学ぶはずで、更に、ルール(制約)の少ないサッカーというスポーツからは、善悪の正しい判断基準を持ち合わせ、自らを律することができる人間が育つはずで、決して、犯罪行為を誇らしげにネット上に公開するなどといった馬鹿げたことはしないでしょ。もし、彼らにサッカーを指導した人がいるとしたら、その人たちは恐らく後悔の念に駆られ、深い悲しみに沈んでいることでしょう。

同じ指導者としては惻隱の情を催さずにはいられません。指導者にとって、もちろんプロのサッカー選手を育てることは大切ですが、プロ

になれる人間はほんの一握りです。大多数の子どもたちには、サッカーを通じて「生きる力」を身につけさせるために「自ら考え、自ら決断をし、自ら行動に移す」ことを指導してきたはずで、善悪の判断は勿論、ルールの少ないサッカーの特性として、自らを律することができる人間に育て上げることも大切な使命だったはずで、そんな指導を受けてきたはずの子どもたちが、自らのサッカーの技術を誇示するために公共物を破壊したり、無断で他人の敷地に立ち入ったりし、その様子をネット上に公開して平然としていること自体が信じられません。

### 【サッカー選手である前に一人の人間であれ】

サッカーが少し上手であったために、親子ともども勘違いをして、サッカー界から姿を消してしまった例も数多く存在します。また、サッカーさえ上手ければ、何をしても許されるといったことは絶対にありません。日本サッカーの父と言われるデットマール・クラマー氏は「サッカーは子どもを大人にし、大人を紳士にする」と言い、イビチャ・オシム氏は「人生に必要なことはすべてサッカーのピッチにある」と言いました。サッカーが人生にもたらす影響の大きさが分かる名言です。

同じサッカーの指導を受けながら、久保建英のようになる子もいれば、公共物を破壊するためにボールを蹴る子もいます。その差は何なのだろうかと暗い気持ちになります。やはり、「考える」ことの指導が不十分だったのだろうと考えます。「考える」ことには想像力や創造力が含まれます。まずは公共物を壊すことはどうなのか? → 犯罪であるということ想像できないと困りますし、犯罪行為を公にすることがどういう結果を招くのか? → 非難されることはあっても称賛されはしないということまで想像できないと話になりません。サッカーさえ上手ければ、その技術を公共物の破壊に利用しても許されるとでも思ったのでしょうか。或いは、そういう

犯罪行為を見て、世間の人々が「サッカーが上手いね」と褒めてくれるとでも思ったのでしょうか。サッカー選手である前に一人の人間であれということを引きちゃんと教えるべきだったのでは…と自戒の念を込めて考えさせられた一件でした。

(佐藤 敏明)

### 小 3

2週続けて練習試合を行いました。蹴る、止める、ドリブル、パス、シュート、この5つをただ何となくやるのではなく、1つ1つ細かいところまでこだわってプレーをしようと思えました。

蹴る・パスは、ボールが来たからといってただ蹴るだけではなく、味方に対してメッセージのあるパスを出せるようにと伝えています。

パスするボールの強さ、足元、裏のスペースへのパスなのか、意図が相手に伝わるようなボールが蹴れるようになりますようにと伝えています。

ドリブルは、怖がらず相手に仕掛けに行くこと、人が目の前に多くいるのに闇雲にドリブルで抜くのは難しいので、渋滞していたら逆サイドにドリブルで広げるか、ボールを繋ぎ逆にかけていくか、無理に突っ込んでいてはただ取られるだけになってしまいます。

シュートについては、今まで積極的にシュートを打つ子があまりいませんでした。しかし、最近になり打てるタイミング、ゴール前、ボールが飛ぶ、飛ばない関係なく、打たないと点が入らないこと、打って弾いたボールが見方のあるところに来るかもしれないとずっと言い続け、ゴール前ではできる限りシュートで終わることを意識するようにと伝えてきました。

止めることに関しては、ボールがきたからただ蹴るのではなく、ボールを止める、味方を見る、の動作を少しづつでいいから意識してやってみよう。止めると言っても、ただ足下に止めればいいと言うわけではなく、相手が来ていればかわせるところにボールを置いておかないとす

ぐ取られてしまいますし、状況によって判断していけるようにといったことを伝えています。この5つは練習においても試合においても、子ども達にはまずはやってみないとわからない、チャレンジしないとスキルアップに繋がらないずっと言い続けています。プロでもミスをしたくない選手はいません。ミスを恐れずにチャレンジすることを常に忘れずプレーをすることが、上達に繋がりますので、まずはやってみようということをしっかりと伝えていきます。

難しいこともあるとは思いますが子ども達なりに徐々にトライする姿勢が多く見られるようになってきていますので、引き続き楽しみながらどんどんチャレンジしてってもらいたいと思います。

保護者の皆様におかれましては、子ども達の成長していく姿を温かく見守っていただき、練習においても試合においても、いいプレーが見られたら沢山誉めてあげてください。そう言ったことがモチベーションや自信に繋がっていくと思っています。引き続き宜しくお願いいたします。

(栗城 聖也)

### 小 2

#### 【ボールを大事に】

6月始めの練習では、トップチームの選手が練習に参加してくれました。お手本やアドバイスを送ってくれて、子ども達も楽しそうにトレーニングを行いました。今後も、トップチームの選手と交流する機会をつくりたいと思います。

6月の練習では、小野コーチ、佐藤コーチとともに、ボールコントロールとスローインを中心にトレーニングを重ねました。ドリブルやパス、シュートなど足で丁寧にボールを扱うことや、スローイン時にボールを投げる、投げられたボールをコントロールすることは、試合で自分たちがボールを持つために必要なことですね。間違えながら大丈夫です、少しずつ思い通りにボールをコントロ

ールできるように練習しましょう。また、下旬には、2週続けて練習試合に出かけることができました。羽沢クラブさん、かながわクラブ3年生との試合では、年上のお兄さんとの対戦でビックリしたこともあったのかもしれませんが、みんなも元気にプレーし続け、いくつか得点を取ることができました。月末には、相模原市のミハタサッカークラブさんのフットサルコートでプレーすることができました。早々に失点を重ねましたが、相手のプレースピードに慣れた頃にはたくさん得点を奪うことができましたね。青木コーチからは「ゴールを目指してシュートを打つ!」、「ボールを奪うためには、ボールだけを見ずに自分に近い相手を見つけてマークすること」、「味方がボールを持った時には、前と後ろから助けること」など得点を奪うために積極的にボールに関わることを選手へ求め、互いにシュートが多く、白熱した試合ができたと思います。

保護者の皆様には、前でお知らせしました「ベストサポーターになろう!」をご覧になって頂けたでしょうか。試合や練習を見守っていただき選手たちも思い切りよくプレーしてくれています。これから更に暑い季節になりますが、今後とも選手へのサポートを宜しくお願い致します。

(嘉手納 大輝)

### 幼児・小 1

6月29日に、初の交流試合を行いました。電車・バスを利用した移動、ユニフォームの色が違うチームとの試合、不慣れなグラウンド、相手チームのサポーターの熱い声援と、子供たちはいつも以上に緊張してしまい、あせり、気負い過ぎといったプレーが出てしまいます。

この日は、バスを1本乗り損なってしまい、開始10分前の現地到着にも関わらず、子供たちは元気に試合に臨み、初戦を勝利することが出来ました。3試合目にはどしゃ降りとなりましたが、子供たちは確かな手ごたえを感じていつものようにサッカーを楽しみ、また、さまざまなことを経験することが出来ました。試合は3試合

で1勝2敗の結果でした。

雨にもかかわらず、現地まで応援に駆けつけてくれた保護者の皆様方、ありがとうございます。かながわクラブと相手チームの双方の子供たちのプレーを見ていただいた感想はいかがだったでしょうか。

6月中旬～下旬にかけてのコパ・アメリカ(男子)、ワールドカップ(女子)での日本代表の試合を見ました。男女とも来年の東京オリンピック出場を目指す選手たちが貴重な経験を通して、自信を深める一方で、世界水準に足りていない部分を痛感し、また1つでも2つでもレベルアップしてくれることを期待しています。チームスポーツであっても、個々のレベルが上がらなければ、チーム全体のレベルも上がらないからです。「個のレベル」ということについて興味深い記事を読みましたので、ここに転載します。

#### <2019年6月15日 スポニチアネックス: スポーライター金子達仁さん>

アテネ五輪の日本代表監督だった山本昌邦さんによると、サッカーは「技術(10点)×戦術(10点)×体力(10点)」によって構成されているのだとか。なるほど、得心のいく説明である。と同時に、同じことは個人についても当てはまるのでは、という気がしてきている。

きっかけは先月、雑誌の取材で中田英寿の少年、青年期を知る人たちを訪ねたことだった。ほぼ全員が「才能は大したことなかった」と前置きしたあとで、「でも」と印象的なエピソードを口にしたのである。

まだ代表に選ばれてもいないのに、アジアユースに備えて、真夏でもウインドブレーカーを着て練習していたこと。練習終了後、付き合わされた後輩が音を上げるほど、単調なキックの自主練を延々と繰り返したこと。それが終わると、今度は社会人チームの練習に飛び入りで参加していたこと。「俺は財前\*にはなれない。でも負けたくない」と言い切り、自分の武器としてキ

ックと体の強さに磨きをかけたこと。ユース時代に山本昌邦さんから言われた「これからのサッカーはパスの強さが重要だ」という言葉信じ、キラーパスと揶揄されることがあってもそのスタイルを最後まで貫いたこと。

聞いているうちに、こう思うようになった。サッカー選手は「才能(10点)×努力(10点)×発想(10点)」によって成り立っているのではないかと。

純粋に才能だけを比較するのであれば、中田英寿よりも大きなものを持った選手はいくらでもいた。中田を5とするならば、10をつけてもいいと思う選手までいた。

だが、誰の目にも明らかほど天賦の才に恵まれた少年の多くは、その豊かな才能ゆえに、才能だけで勝負しようとしてしまった。中田英寿が「才能5×努力10×発想10」で合計500になったサッカー選手だとしたら、「10×1×1」の、たったの合計10で終わってしまった選手は珍しくない。思えば、マラドーナは10、あるいはそれ以上の才能に恵まれた選手だが、そのプレースタイルや体形、顔つきや言動もどんどん変わっていった。結果としてマイナスとなる点があったのは事実によ、あれほどの才能の持ち主でさえ、進化の努力は怠らなかった。

才能は重要な要素だが、サッカー選手のすべてではない。努力と発想次第で、可能性はいくらでも広がる。

だが、サッカー選手に才能など必要ない、というわけではもちろんない。もし、豊かな才能に恵まれた少年が、努力と発想の掛け算を怠らなかつたら？若いうちから、いまの自分に欠けているものを見据え、克服し、獲得しようとする努力を続けたら？いままでの日本にそんな選手はいなかった。天才も、大人になったらただの人。それが日本に生まれ落ちた才能の宿命だった。

彼は、明らかに去年とは違う。得点能力は、

数カ月前に比べても上がっている。こんな選手を日本で見た経験がわたしにはない。

それが久保健英である。彼はひょっとしたら…いや、いまはまだやめておこう。

\* 中学時代から読売ユースに所属。読売への入団テストでは、当時の小見幸隆コーチをして「ボールをもった瞬間に合格」と言わしめた逸材。1993年のU-17世界選手権では日本代表の中心選手として、リーグ戦3試合全てでマンオブザマッチを獲得しベスト8進出に貢献、大会ベストイレブンにも選出される。中田英寿も認めた才能の持ち主(運動量なら中田、パセンスなら財前と言われていた)だったが、度重なる膝の怪我に苦しんだ。

かながわクラブの子供たちに限らず、すべての子供たちには大きな可能性があります。才能と努力と発想の掛け算については、小学生低学年の時期には、それぞれの数値が日ごと、月ごと、年ごとに代わってきます。それは、Golden-Age(育成の時期)だからこそのことです。試合に勝った、負けた、出た、出ないといった出来事にその数値を決めさせてはなりません。サッカーが楽しいから、うまくなりたいたいから努力する。ボールを自由に扱えるようになれば、周りを見ることができ、様々な状況に応じて、次にとのようなプレーをすればよいか？のアイデア(発想)が生まれます。練習でできないことは試合でもできない。試合でできなかったことをできるようになるまでトレーニングする、というTraining-Match-Trainingの流れをさらに継続していき、子どもたちの経験値を高めていきます。

(浜野 正男)

## PAPAS

毎週 8:00~9:30、30代前半の青年から60代半ばの壮年までと一緒にプレーすること自体が稀有なことです。小学生・中学生時代にかながわクラブに所属していた人、他チーム/学校で高校生・大学生までプレーしていた人、お

子さんの入会を契機に 40 代を越えてからプレーを始めた人など、パパスはさまざまなメンバーで構成されています。

創立時には、サッカー経験が乏しく、ゲーム中に腱や筋肉を傷めたり、よけ切れず・止まれずにぶつかったり、足がもつれて転倒したり、イメージとはほど遠いプレーにイライラしたり場面が多かったメンバーたちが「ベテランの域」に達し、あとに続く若手世代が 50 代を迎えるようになりました。そのあとを引き継ぐ「現若手世代」も確実に増えてきています。

パパスには「文化」ができつつあります。ベテランには追いつくのが厳しいパスを若手が出せば、すかさず周りから「思いやり！」の声が出ます。公式戦の合間に参加した人がグリーンシートを決めれば「それは公式戦で見せてよ！」と激励する。決して無理をしないプレーで自分も相手も怪我・事故にならないように配慮する。

大人による、大人の、大人のためのサッカーが展開されています。

パパスメンバーは「支える」ことも、大人の行動を見せてくれます。ゲームのない時間帯に子供たちのミニゲームに入って多世代の交流を進めるメンバー。前日に降った雨でできた水溜りを見て、早めに来た 10 名～15 名のメンバーが、スコップで水をかき出し、砂場からセーフティコーンに砂を入れて運び、土を均等にまき、整地するという作業を、誰かの指示がなくても淡々と進め、わずか 10 分足らずでグラウンドは完璧な状態になります。駐輪スペースでの対応も同様に、自分たちだけでなく、あとに使う小学生たちのことを常に考えて対応してくれる「大人の振り舞い」にその都度、感謝、感動しています。いつも本当にありがとうございます。

これから9月まで暑い中での活動となりますので、熱中症には細心の注意を払って、無事故でサッカーをますます楽しんで欲しいと思ひ

ます。

#### <集合時間、プレーする上でのお願い>

●コート3周のジョギングを終えて、8:00には球まわしを始められるように準備する。遅刻したら各自でジョギング、ストレッチを行ってください。

●ストッキングを必ず着用してください。怪我防止の為にすね当ても着用しましょう。

●前日はきちんと睡眠をとり、当日も起き抜けで駆けつけるのではなく、軽食を済ませて参加してください。

●活動中は水分をこまめにとり、関節や筋肉に違和感があれば無理をせずプレーを中断することで、事故や怪我を防ぐようにしましょう。

(浜野 正男)

## ヨーガ

### 【ボイトレ始めました】

実は私、同窓生とバンドを組んでいます。なんとなく担ぎ出されてボーカルを担当することになって 3 年目。披露する場は年にたった1回。それもごく内輪のコンサートの演奏だけなのですが、人前でということになると聞いてくださる方々のためにも少しは練習しなければということになります。

音楽のことなど最初は何もわからず、ただみんなが集まってワイワイと練習することが楽しく、そのあとに「反省会」と称してガヤガヤと飲みに行くのはさらに楽しく、そして本番のコンサートでは聞いてくれる同級生たちがグングンと盛り上げてくれるので、これまたものすごく楽しい。とにかく楽しいことづくめで気が付けば 3 年目となった今年です。

ここで「どうせ歌うのならもう少し上手に歌えるようになりたい。」という気持ちがふつふつと湧いてきました。でも、インターネットの動画を見て発声練習をするなど工夫はするものの、どこかぴんと来ない。習いに行ってみたいけれど忙しくて時間もなさそう。というか、そもそも、どこに

行ったら私のような素人に歌を教えてもらえるのかすらわからない。

悶々としていたところに「ボイトレニング教室」と書いたチラシが…それもいつも、この「かながわクラブ水曜ヨーガクラス」を実施している施設で、ちょうど私のスケジュールの空いている時間帯での開催です。「これだ！」とさっそく申込みました。

というわけでドキドキもので迎えた初日のボイトレ教室。

最初は基本の呼吸法から開始です。とそこで「あれ？」歌を歌うための基本の呼吸法はヨーガの呼吸法とそっくりではありませんか。なんと、今まで行ってきたヨーガの呼吸法を上手に應用することができれば歌がドンドン上手になるようなのです。驚きです。どうしたら歌が上達するのか全く先が見えなかったところにパッと明るい光が差し込んだよう。

ボイトレの先生にも褒めていただき気持ちもグッとあがります。

いざ、ヨーガを応用した新しい歌の世界へと行かん！頑張ります！！

(伊藤 玲子)

**伊藤玲子先生のCD 新発売！**  
**聴く！グナヨーガ**

聴く！  
グナヨーガ  
チェアー

収録時間：52分  
ボース写真入りブックレット  
8ページ

聴く！  
グナヨーガ  
フロアー

収録時間：59分  
ボース写真入りブックレット  
12ページ

★お買い求め方法  
 ①以下の薬局の店頭でご購入いただけます。  
 光和薬局 神奈川区片倉5-5-1  
 ※地下鉄片倉町駅前のARビル1階  
 TEL: 045-482-2215  
 坂田薬局 神奈川区三ツ沢中町7-9  
 ※地下鉄三ツ沢下町駅3番出口を右に出て、  
 徒歩5分  
 TEL: 045-321-3653  
 ②以下のグナヨーガ公式サイトからご購入いただけます。  
<http://www.gunayoga.com>  
 ③アマゾン (amazon) からご購入いただけます。  
 ④アイチューン (iTunes) からご購入いただけます。

**各1575円 (税込) 販売中**



伊藤玲子先生

日本テレビに出演



**YOKOHAMA**  
**ANDO**  
 SPORTS

アンドウスポーツ

## 内田泰嗣税理士事務所

有限会社トップガン (ワンストップサービス)

税理士 内田 泰嗣

TEL/FAX 045-431-0408 〒221-0014 横浜市神奈川区入江 2-19-11 大口増田ビル 203号